

JAPAN HERITAGE

日本遺産



海の京都

2020 丹後ちりめん
創業300年

たん ご
丹後ちりめん

ねん きぬ ものがたり
～ 300年の絹の物語～



1 丹後ちりめんについて学ぼう

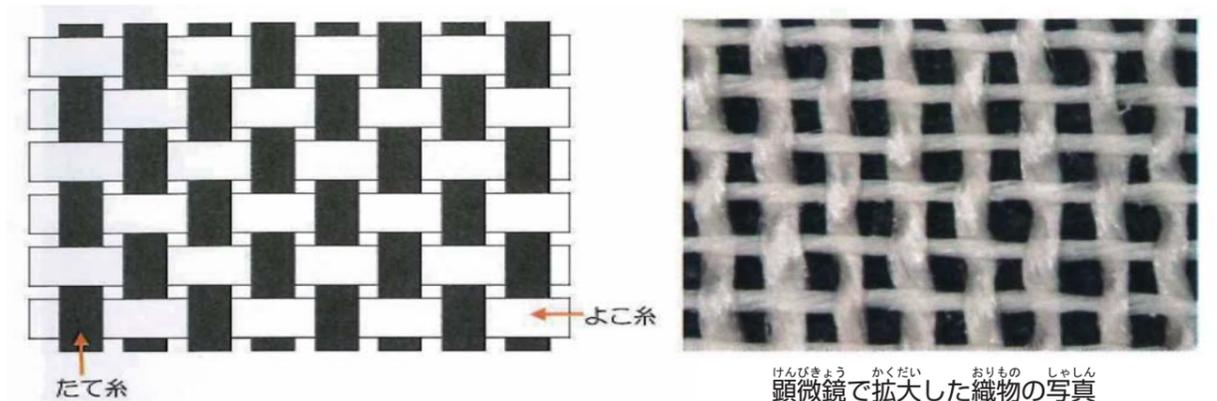
(1) 丹後ちりめんって、どんなもの？

丹後ちりめんは、着物などに使われる布のことで、たて糸とよこ糸が交わることで作られます。このような布は「織物」と呼ばれています。糸は、生糸（絹糸）などが使われます。



織物を拡大してみると・・・

下の織物は、平織りと呼ばれる、織物の基本となるたて糸とよこ糸の交わり方です。このようにして、糸が交わることで、織物が作られます。糸の種類やたて糸とよこ糸の交わり方によって、いろいろな種類の織物があります。



(2) 丹後ちりめんって、ほかの織物と何がちがうの？

丹後ちりめんは、よこ糸に強くねじった生糸（絹糸）（1メートルあたり3,000回ぐらいねじります。）を使って作る織物で、表面に「シボ」という細かい凸凹があるのが特徴です。

この「シボ」があることで、シワになりにくく、しなやかで、凸凹で光が反射することで、織物を染めた時の色がとてもきれいなため、着物の主な生地として使われています。また、生糸（絹糸）だけでなく、ポリエステル、レーヨンなどの化学繊維の糸で織った丹後ちりめんも作っています。

目次

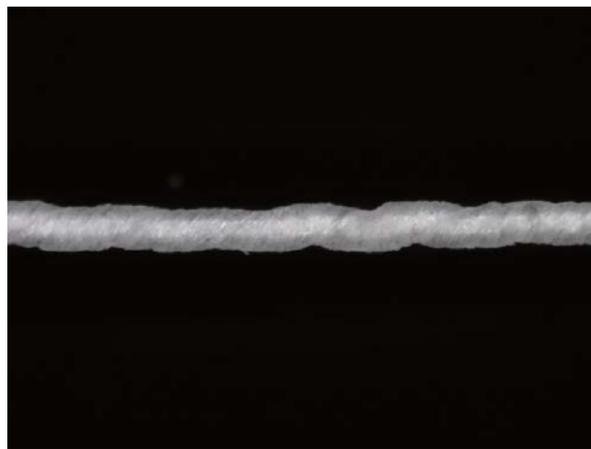
1 丹後ちりめんについて学ぼう	1
(1) 丹後ちりめんって、どんなもの？	1
(2) 丹後ちりめんって、ほかの織物と何がちがうの？	1
(3) 丹後ちりめんは、いつからはじまったの？	3
① 丹後の織物のはじまり	3
② 丹後の織物を育てた自然	3
③ 丹後ちりめんの誕生	4
④ 丹後ちりめんの発展	5
⑤ 現在の丹後ちりめん	6
(4) 丹後ちりめんは、どこで作られているの？	7
(5) 丹後ちりめんは、どうやって出来るの？	8
(6) 丹後ちりめんは、どんな種類があるの？	10
① 丹後ちりめんの種類の例	10
② 丹後ちりめんの材料	11
(7) 丹後では、ほかにどんな織物があるの？	12
(8) 絹の糸はどうやって出来るの？	12
(9) 日本にはどんな絹の織物があるの？	13
2 日本遺産「丹後ちりめん回廊」を学ぼう	14
(1) 日本遺産ってどんなもの？	14
(2) 日本遺産になった「丹後ちりめん」の物語はどんなもの？	14
(3) 日本遺産の「丹後ちりめん」の物語には、どんなものが出てくるの？	15

【「シボ」ができるわけ】

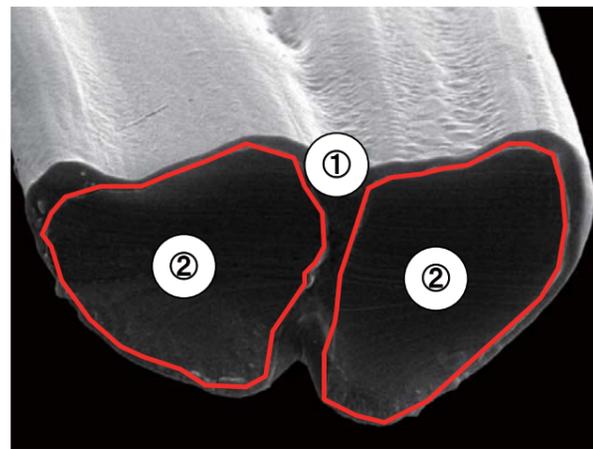
丹後ちりめんは、強い撚り（糸をねじること）をかけた糸を使って織りますが、そのままでは「シボ」はできません。生糸（絹糸）は、糸の周りに「セリシン」というタンパク質があるので、絹の織物は、薬剤を入れた湯で煮て、生糸（絹糸）の周りの「セリシン」や汚れなどを取り除くこと（精練といいます）で、白くてやわらかい美しい織物になります。

「セリシン」が取り除かれてすき間ができるため、ねじれていた糸がほどけようとするので、よこ糸が縮んで、「シボ」ができるのです。

丹後ちりめんとシボ



（丹後ちりめんのよこ糸を拡大した写真）
糸がねじれています。



（生糸の一部（繭糸）を切ったところを拡大した写真）
精練することで、外側の①の部分なくなり、②の糸だけが残ります。



無地ちりめん（模様のないちりめん）



もんちりめん（模様のあるちりめん）

(3) 丹後ちりめんは、いつからはじまったの？

① 丹後の織物のはじまり

丹後地域では、古くから織物が作られていました。約1300年も前の奈良時代（739年）に、丹後国の鳥取（京丹後市弥栄町鳥取）で織られ、聖武天皇に献上された絹織物「絶」が、現在でも奈良の正倉院に残っています。



絹織物「丹後国 絶」（正倉院宝物）



丹後の織物の道具

また、南北朝時代のものである書物『庭訓往来』には、丹後で「丹後精好」という絹織物が作られていたことが書かれており、丹後は古くから織物の里として知られていました。

② 丹後の織物を育てた自然

丹後地域では、秋から冬にかけては、「うらにし」と呼ばれる冬の季節風が吹き、「弁当忘れても傘忘れるな」と言われるぐらい、雨や雪が降ったり、やんだりする日が続きます。織物を作るには、糸が切れないように湿気や水が必要ですが、こうした気候が織物づくりに適しているのです。



山陰海岸ジオパーク・立岩



うちやま 内山のブナ林

③ 丹後ちりめんの誕生

丹後地域の海岸から離れた陸地では、農業と織物が人々の生活を支えていましたが、江戸時代に京都の西陣で新しい絹織物「お召ちりめん」が作られると、丹後地域の絹織物「丹後精好」が売れなくなり、農業も凶作が続いたため、人々の生活は大変苦しくなりました。

ちりめんは、もともと中国から堺（大阪府）に伝わり、その後西陣に伝わったもので、生地に「シボ」と呼ばれる細かい凸凹がある美しい光沢を持つ織物でしたが、当時はその織物を織る技術は秘密にされていました。

そうした中、峰山（京丹後市峰山町）の絹屋佐平治は、丹後の人々を救うため、「お召ちりめん」のような織物を作ろうと考え、京都の西陣で修業し、研究を重ねましたが、ちりめんの「シボ」をうまく作り出せませんでした。

そこで、佐平治は、峰山の禅定寺の聖観世音菩薩に断食祈願（食べ物を食べずにお祈りをすること）し、西陣で再び修業し、研究を続け、長い苦勞の末に、享保5年（1720年）、ついに独自のちりめんを作ることができました。



絹屋佐平治が禅定寺に奉納したちりめん



常立寺の絹屋佐平治の墓碑

また、同じ頃に、後野（与謝野町後野地区）の織物の問屋であった、木綿屋六右衛門も、ちりめんの技術を学ぶため、京都の西陣の織屋に頼んで、加悦（与謝野町加悦地区）の手米屋小右衛門と、三河内（与謝野町三河内地区）の山本屋佐兵衛を西陣へ修業に行かせました。



杉本治助家住宅
(丹後ちりめんの始祖「手米屋小右衛門」の老家)



西山機業場
(丹後で一番古いちりめん工場)

2人は苦勞してちりめんの技術を学び、享保7年（1722年）に、ちりめんの技術を丹後に持ち帰ったのです。

④ 丹後ちりめんの発展

こうして、ちりめんの技術を習得した4人は、その技術を自分たちのためだけに使わずに、丹後地域の人々に教えました。このため、苦しい生活をしてきた人々は大変喜び、ちりめんは「丹後ちりめん」として、丹後地域全体に広まりました。

この地の人々は、自分たちの努力で、新しい絹織物「丹後ちりめん」を作り出し、苦しい時期を乗り越えたのです。

その後、「丹後ちりめん」は、ちりめんの代表的存在として、友禅染などの着物の生地として、日本の着物文化を支えてきました。

【丹後ちりめんの着物】



振袖
成人式・結婚式・謝恩会などの祝い事やパーティにおいて、未婚（結婚していないこと）の人が着る着物です。



訪問着
未婚・既婚（結婚していること）の区別がなく、また、振袖や留袖のような約束事が少ないため、幅広く着られる着物です。



小紋
総柄の紋様があるのが特徴で、おしゃれ着として気軽に着られる着物です。

人々は生地（ひとびと きじ）にいろいろな模様（もよう）を織り出す（お だ）紋（もん）ちりめん（つく だ）を作り出す（くふう つづ）など、工夫（くふう）を続け（つづ）、丹後（たんご）ちりめん（ちりめん）が最も（もっと）多く（おほ）作られた（つく）昭和（しょうわ）30～40年代（ねんたい）には、ガチャッと（お）織れば（ま）万単位（まんたんい）でお金（かね）がもうかる（か）「ガチャマン」と（よ）呼ばれる（よ）ほど、丹後（たんご）地域（ちいき）は絹織物（きぬおりもの）の産地（さんち）として（さ）栄え（さか）ました。



丹後ちりめんを織っているようす



丹後ちりめんを織る機械



丹後ちりめんの着物

⑤ 現在の丹後ちりめん

日本の着物（にほん きもの）を生活（せいかつ）の中で着（な）く機会（きかい）が減（へ）ったこと（こと）などから、丹後ちりめん（たんご ちりめん）を生産（せいさん）する量（りょう）は減（へ）って（い）て、織物（おりもの）の産業（さんぎょう）はとて（と）も厳（きび）しい（じょうきょう）状況（じょうきょう）です。

けれども、丹後ちりめん（たんご ちりめん）は、着物（きもの）の生地（きじ）だけでなく（な）、洋服（ようふく）の生地（きじ）にも使（つか）われ、スカーフ（さか）フなどの小物（こもの）や、家（いえ）の中（なか）の壁（かべ）には（は）るような（よう）インテリア（いんてりあ）用品（ようひん）など、新（あたら）しい商品（しょうひん）も作（つく）られています。

また、フランス（フランス）のパリ（パリ）で行（い）われた（い）ファッション（ファッション）ショー（パリ・オートクチュール・コレクション（パリコレ））に、京丹後市（きょうたんごし）と与謝野町（よさのちょう）の織物職人（おりものしやくじん）が作（つく）った生地（きじ）を使（つか）った作品（さくひん）が出品（しゅっぴん）されました。

そのほかに、水（みず）に濡（ぬ）れても縮（ちぢ）みにくく、こす（こ）れても傷（きず）つきにくい「ハイパーシルク」という加工（かこう）技術（ぎじゆつ）や、ポリエステル（ポリエステル）などを使（つか）ったちりめん（ちりめん）なども作（つく）られています。

江戸時代（えどじだい）に「丹後ちりめん」を生（な）み出（だ）した4人（にん）の努力（どりよく）する心（こころ）と織物（おりもの）の技術（ぎじゆつ）は、今（いま）も丹後地域（たんごちいき）の織物職人（おりものしやくじん）に受け継（つ）がれ、平成32年（へいせい ねん）（2020年）に、生（な）まれてから300年（ねん）を迎（むか）える「丹後ちりめん」は、その技術（ぎじゆつ）を更（さら）に発（は）展（てん）させています。



丹後ちりめんを使ったパリコレの作品



丹後ちりめんを使ったスカーフなどの小物

(4) 丹後ちりめんは、どこで作られているの？

丹後ちりめん（たんご ちりめん）は、京都府（きょうとふ）の京丹後市（きょうたんごし）と与謝野町（よさのちょう）で主（ま）に作（つく）られています。丹後地域（たんごちいき）は、着物（きもの）に使（つか）われる織物（おりもの）を日本（にほん）一（いち）た（た）くさん（さん）作（つく）っているところ（ところ）です。

日本（にほん）の着物（きもの）の生地（きじ）の約（やく）60%（ぱう）を作（つく）っており、日本国内（にほんこくない）で使（つか）用（よう）される生糸（きいと）（絹糸（きぬいと））の約（やく）30%（さんぱう）を使（つか）っています。

織物を作っているところの数と仕事をしている人の数

	京丹後市	与謝野町	合計
事業所数	830	400	1,230
従事者数	1,528	836	2,364

織る機械の数

	京丹後市	与謝野町	合計
小幅織機	2,482	1,212	3,694
広幅織機	363	445	808
合計	2,845	1,657	4,502

(平成28年度 京丹後市、与謝野町 織物実態統計調査報告書より)

(5) 丹後ちりめんは、どうやって出来るの？

生糸（絹糸）から丹後ちりめんが出来るまでには、たくさんの作業や、職人の経験と高い技術が必要です。

【丹後ちりめんができるまで】



① 生糸（絹糸）
ちりめんの原料となる生糸は、製糸工場から、写真のような状態で箱づめで送られてきます。



② 糸繰り
最初に、生糸をポビン（糸枠）に巻き取ります。この作業が完全でないと、その後の製品の出来上がりに影響を及ぼすため、熟練の技術が要求されます。



③ 整経
たて糸を織機に仕掛けるための準備。120～200本単位の糸を、織物のたて糸の数だけ一度ドラムに巻き取り、さらに男巻という糸を巻き取る棒に30～50反分を巻き上げます。



④ 撚糸
よこ糸に撚りをかける（糸をねじる）作業。丹後独特の八丁撚糸機を使い、水を注ぎながら糸1メートルあたり3,000～4,000回の強い撚りをかけ、シボのもとを作ります。



⑩ 出荷
厳しい検査を受けたちりめんには、合格品は赤色、不合格品は青色で、その結果を表示します。製品には丹後ちりめんの証であるブランドマークをおして、市場に送り出します。



⑤ 製織
糸を織機に掛けて、織りの作業に入ります。模様のある紋ちりめんの場合は、ここでジャカード機という機械を使い、たて糸とよこ糸を組み合わせて、美しい模様を織り上げていきます。



⑨ 検査
出来上がった全てのちりめんは、検反機にかけて1枚ずつ厳重に検査します。



⑧ 幅出し
乾燥後のちりめんは、幅や長さが縮んでいるため、これを規定の幅・長さには整えます。



⑦ 乾燥
精練後のちりめんを水洗・脱水し乾燥機にかけます。乾燥方法によってシボや風合いに大きな違いが出るため、ちりめんの種類に応じた最適な方法が採られます。



⑥ 精練
織りあがったちりめんのセリシン（生糸の周りにあるタンパク質）や汚れを洗い流します。この作業で独特の風合いを持つ白くてやわらかなちりめんとなります。

(6) 丹後ちりめんは、どんな種類があるの？

丹後ちりめんには、織り方によって、たくさんの種類があります。

絹だけでなく、ポリエステルなどを使ったちりめんも作られています。

丹後ちりめんは、着物の生地をはじめ、洋服の生地や、スカーフなどの小物やインテリア用品など、新しい商品づくりが進められています。

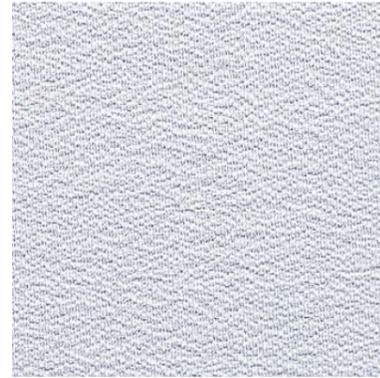
① 丹後ちりめんの種類の例



変り無地ちりめん
縮みの欠点を、特殊な撚糸（ねじった糸）を工夫して織り上げてカバーしたちりめん。縮みにくくシワになりにくいのが特徴です。



一越ちりめん
古い歴史を持つちりめん、シボが美しく、柔らかい風合いが楽しめます。



古代ちりめん
左撚り2本、右撚り2本の糸を交互に織り込むため、一越ちりめんよりシボが高いのが特徴です。古代の生地に似ていることからこの名前が付けられ、シボが大きいことから鬼シボちりめんともいいます。色無地などに使用されます。



紋縷子ちりめん
綾織りの表と裏を使って模様を織り出したもので、重目は付け下げ・訪問着など高級着に、軽目は襦袢地に使用されます。



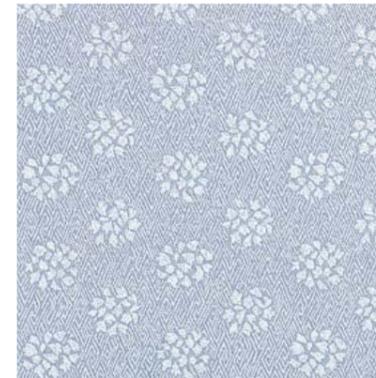
紋意匠ちりめん
よこ糸を二重にして地紋の変化と深みを出したちりめん。染め上がり豊かな立体感があり、無地染めや、ぼかし染めに多く用いられています。



縫取ちりめん
ちりめんの生地に金糸・銀糸・ウルシ糸・ラメ糸などの装飾糸を使って模様を縫い取ったぜいたくなちりめん。打掛や中振袖・訪問着などを中心に豪華さを演出します。



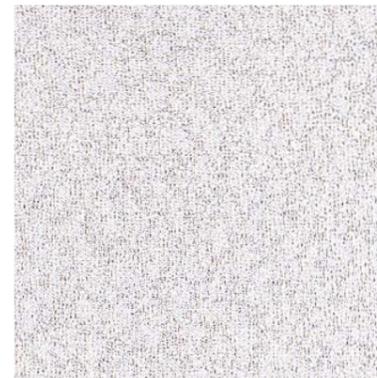
駒縷子ちりめん
シャリッとした独自の風合いと光沢が特徴。地紋を生かした染め着物の生地としてファンに好まれています。



五枚朱子ちりめん
生地面の光沢が美しいちりめん、華麗な中振袖や付下げなどに使われます。



紹・紗ちりめん
生糸100%で作られる、シースルー地の夏向けの織物です。通気性に優れているため、夏でも心地よく着ることができます。



金通しちりめん
ちりめん地に金糸を織り込んだものです。染色性に優れたちりめんは、あらゆる色に染め上げられますが、金糸は染まらず光沢を放ち、彩りが豊かな着物の生地として用いられています。銀糸を使った銀通しちりめんもあります。

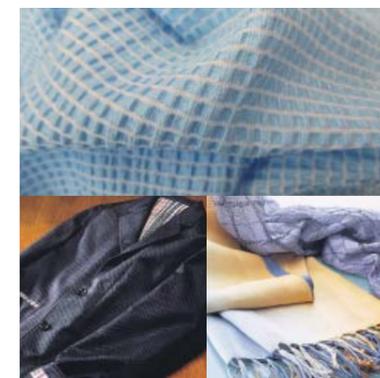
② 丹後ちりめんの材料



絹（シルク）
蚕が作る繭から取り出して作る天然の糸です。白く光って美しく、軽くて、しなやかなことが特徴です。糸の中に空気をたくさん含んでいて、熱を伝えにくいので、絹の織物は薄くても暖かいです。



ポリエステル
石油から作られる化学繊維で、丈夫で、シワになりにくく、洗濯しても乾くのが速いのが特徴です。



複合素材
材料がちがう糸を組み合わせることで、組み合わせと織り方によって、いろいろな織物を作ることができます。

(7) 丹後では、ほかにどんな織物があるの？

丹後では、着物の生地以外に、西陣織という織物を織っている職人さんもいますし、ほかにもいろいろな織物を作っています。

- 和装小物 …… 着物を着るときに使う帯揚げや風呂敷
- 洋服生地 …… 洋服に使う織物
- インテリア生地 …… 家の中の壁にはるような織物
- カーシート生地 …… 自動車のすわる席の表面に使う織物

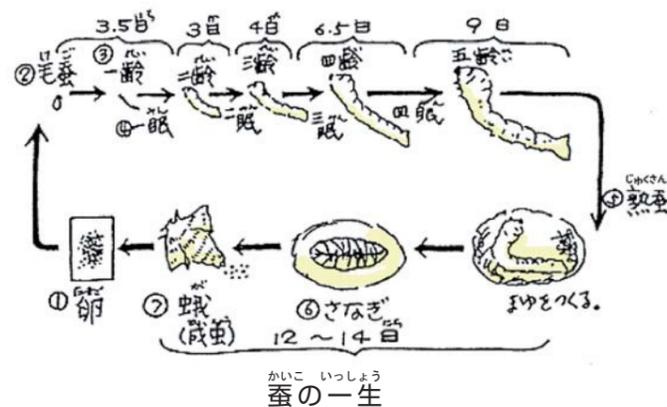


丹後ちりめんの洋服の生地

(8) 絹の糸はどうやって出来るの？

① 養蚕

生糸(絹糸)は、昆虫の蚕が作る繭から、糸を取り出して作ります。蚕のエサとなる桑の葉を育てて、蚕を飼い、繭を作らせることを養蚕といいます。



蚕と桑の葉

② 製糸

繭から糸を取り出し、生糸を作ります。製糸工場では、繭を一度乾燥させたあとに繭を煮て、糸を取り出します。取り出した糸は細いので、何個かの繭から出た糸を集めて一本の生糸にします。

【着物を1着作るためには、たくさんの蚕と桑の葉が必要です】

着物を1着作るためには、生糸が約900g必要です。そのためには、約2,600粒の蚕の繭が必要で、これだけの蚕を育てるには約98kgの桑の葉が必要になります。

着物を作るためには、たくさんの蚕と桑の葉が必要になります。



繭



生糸

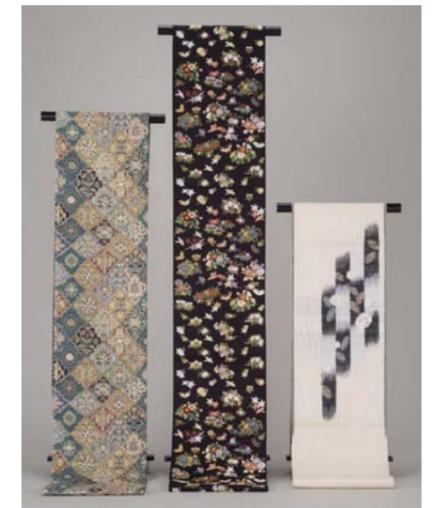
(9) 日本にはどんな絹の織物があるの？

日本には、いろいろな織物がありますが、絹の織物で、主なものをいくつか紹介します。

・西陣織

京都市の西陣で作られている絹織物で、1467年に起こった応仁の乱で、西軍が陣を構えた場所を西陣と呼ぶようになり、その織物を西陣織と呼ぶようになったと言われています。

糸を先に染めてから織る織物(先染め織物)です。



西陣織

・浜ちりめん

滋賀県長浜市で作られている絹織物で、丹後からちりめんの技術が伝わったと言われており、丹後ちりめんと同じように、よこ糸に強い撚りをかけて作り、表面に「シボ」という細かい凸凹があるのが特徴です。



浜ちりめん

・結城紬

結城紬は、茨城県と栃木県で作られている絹織物で、この地域の領主であった「結城氏」の名前から、結城紬と呼ばれるようになったと言われています。

繭を煮て広げて作った真綿から、手で紡ぎ出した糸で「紬」の代表的な織物です。



結城紬

・大島紬

鹿児島県の奄美大島などで作られている「紬」の代表的な織物です。植物を煮た液で糸を染めてから、泥の中で染めることで、独特の黒い色に染められる「どろぞろ染め」が特徴で、その他にもいろいろな色や模様で織って作られます。



大島紬

2 日本遺産「丹後ちりめん回廊」を学ぼう

(1) 日本遺産ってどんなもの？

日本遺産とは、日本の文化を紹介するような、特徴のある地域の歴史や文化の物語を、国の文化庁が認めるもので、平成27年度に作られました。

その地域の歴史や文化の物語と、物語に出てくるお寺や神社、町並み、景色などをまとめて、地域の魅力として日本や外国に発信し、観光客の方に来てもらったり、特産品が売れることで、地域を元気にすることを目的としています。

【日本遺産の認定地域】

日本遺産は、全国で54件が認定され（平成29年4月現在）、2020年までに約100件程度が認定される予定です。



『日本茶800年の歴史 散歩』～京都・山城～
(京都府山城地域の12市町村)



『鎮守府横須賀・呉・佐世保・舞鶴』
～日本近代化の躍動を体感できるまち～
(横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市)

(2) 日本遺産になった「丹後ちりめん」の物語はどんなもの？

絹織物「丹後ちりめん」の物語『300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊』が、日本遺産に平成29年4月に認定されました。

【日本遺産になった丹後ちりめんの物語】

京都府北部の丹後地域を訪れると、どこからかガチャガチャという機織りの音が聞こえてきます。

丹後は古くから織物の里で、江戸時代に生まれた絹織物「丹後ちりめん」は、しなやかで染めた時の色がきれいで豊かなため、着物の主な生地として、日本の着物文化を支えてきました。

丹後は今も着物の生地の約6割を作るなど、日本で最もたくさんの絹織物を作る地域で、丹後ちりめんは、織物だけでなく、町並みや唄、踊りなどの文化も育てました。

この地域に来れば、約300年の織物の歴史と文化を感じることができます。

【物語に関する市町村】 宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町



丹後ちりめん

よこ糸に強い回転をかけた生糸(絹糸)を使い、生地に細かい凸凹状の「シボ」がある織物。しなやかで、染めた時の色がきれいなのが特徴です。

(3) 日本遺産の「丹後ちりめん」の物語には、どんなものが出てくるの？

○ 丹後ちりめんが育てた町並みや文化

丹後ちりめんは、産業として人々の生活を支えただけでなく、丹後ちりめんを買ったり、京都に運ぶためなどに人々が集まり、町が作られ、はなやかな祭り、唄や踊りが出来るなど、丹後地域の町や文化を育てました。

丹後ちりめんに関係する町並みや文化が、今も丹後地域の中に残っています。主なものを紹介します。



金刀比羅神社

・ 金刀比羅神社と拍猫(京丹後市)

江戸時代に、丹後ちりめんが栄えた峰山藩の殿様が建てた神社で、とても広く、たくさんの建物があります。

神社の中の、養蚕(蚕を育て、繭を作らせること)の神様をまつる木島神社に、めずらしい拍猫(猫の石像)があります。

ネズミは、蚕や繭などを食べて、絹糸が作れなくなるため、人々は、ネズミを追い払う猫をととても大切にしていました。このため、拍猫ではなく、猫が拍猫として、養蚕の神様を守っているのです。



木島神社の拍猫

・ 丹後ちりめん小唄(京丹後市)

昭和10年(1935年)に、丹後ちりめんの宣伝のため、新たに作られた唄で、京丹後ちりめん祭などで、唄に合わせて踊られます。



ちりめん小唄おどり

・ 天橋立(宮津市)

丹後ちりめんの産地のシンボルにもなっている丹後地域の代表的な景観地で、天にかかると橋のように見えることから「天橋立」の名前がつけました。

龍のような地形や、美しい松並木や砂浜があり、宮城県の松島、広島県の安芸の宮島とともに、日本三景の一つとして知られています。



天橋立

・ 民謡 宮津節

宮津は、江戸時代までは「丹後ちりめん」の主な生産地で、「丹後ちりめん」を集め、主に京都へ運んだ町でもありました。

宮津藩の城下町として、多くの商人や船乗り、観光客などがたくさん集まり、にぎやかで、芸者さんもいました。

その時の様子を唄ったのが、民謡「宮津節」という唄で、丹後



宮津節と宮津おどり

ちりめんなどの^{ぜんこく おりもの}全国の織物や、^{あまのはしだて}天橋立や^{ぼさつ ちおんじ}文殊菩薩（智恩寺）などが^{うた なか}唄の中に出てきます。毎年8月に、^{みやづぶし}宮津節などに^あ合わせておどる、^{しみんそう おこな}市民総おどり大会が行われます。

○ ^{かいどう よさのちょう}ちりめん街道（与謝野町）

^{かや よさのちょうかやちく}加悦（与謝野町加悦地区）は、^{たんごちいき きょうと むす たんご}丹後地域と京都を結ぶ丹後ちりめんを運ぶまちとして栄えました。この町の人々はちりめんの^{せいざん え おかね どうろ はつでんじょ てつどう}生産で得たお金を道路や発電所、鉄道などを作るためにも使い、^{じぶん ちから}自分たちの力で、まちづくりを行いました。
^{めいじ たいしょう しょうわじだい おりものこうじょう まちや}明治・大正・昭和時代の織物工場や町家などが^{た なら}建ち並び、^{とうじ}当時に^{ふんいき たの}タイムスリップした雰囲気が楽しめます。



^{かいどう}ちりめん街道

● ^{きゅうびとうけじゅうたく よさのちょう}旧尾藤家住宅（与謝野町）

^{えどじだい まつき けんちく たんご}江戸時代末期に建築された丹後ちりめんの商人の家で、ちりめん街道のシンボルです。^{めいじ たいしょうき くら ざしき ぞうかいちく}明治・大正期には蔵や座敷などの増改築が行われ、この家を建てた尾藤家は丹後ちりめんの発展に貢献し、^{めいじじだい ころ}明治時代以降には^{ぎんこうぎょう まち せいじ かつやく}銀行業や町の政治でも活躍しました。



^{きゅうびとうけじゅうたく}旧尾藤家住宅

● ^{にしやまきぎょうじょう よさのちょう}西山機業場（与謝野町）

^{めいじじだい たんご}明治時代の丹後ちりめんの織物工場で、丹後地域では、昭和2年の丹後大震災で、ほとんどのちりめん工場が壊れましたが、^{にしやまきぎょうじょう たんご}西山機業場は丹後でただひとつ残っている、^{めいじじだい ころ}明治時代のちりめん工場です。^{げんざい おりものこうじょう しょう}現在も織物工場として使用され、ガチャガチャという機音が響いています。



^{にしやまきぎょうじょう}西山機業場

○ ^{みごちひきやまぎょうじ よさのちょう}三河内曳山行事（与謝野町）

^{おりもの かみ しどりじんじゃ まつ}織物の神をまつる倭文神社の祭りです。
^{まいとし がつ だい やたい はな まちじゅんこう たんご}毎年5月に12台の屋台が華やかに町を巡行し、丹後ちりめんで栄えた様子を物語っています。



^{みごちひきやまぎょうじ}三河内曳山行事

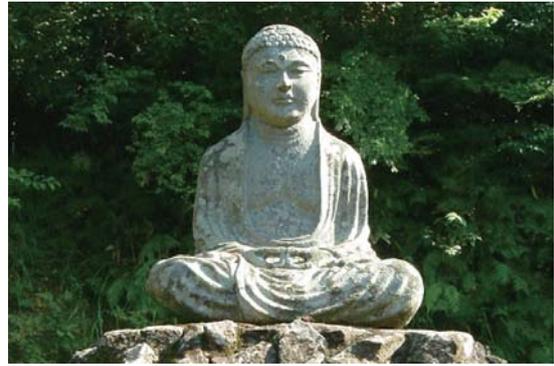
○ ^{たんごだいぶつ いねちょう}丹後大仏（伊根町）

^{いねちょう つつかわちく}伊根町の筒川地区では、明治時代に地域の人々が協力して製糸工場を建て、丹後ちりめんの材料となる生糸（絹糸）を作りました。その後、火事のため工場がなくなってしまうますが、^{ご かし こうじょう ちいき ひとびと}地域の人々の^{どりょく ふたごうじょう た}努力で再び工場を建てました。
^{ご たいしょう ねん こうじょう はたら}その後、大正8年に工場^{ひと}で働いていた人たちが^{とうきょう りょこう}東京に旅行をしますが、^{とうじ}当時はやっていた^{かぜ おお}スペイン風邪で多くの^{ひと}人たちが亡くなり、^{いれい だいぶつ た}慰霊のためにこの大仏が建てられました。
^{いま こうじょう}今は工場はありませんが、^{とうじ ひとびと どりょく れきし つた}当時の人々の努力の歴史を伝えています。



^{たんごだいぶつ}丹後大仏





(発行)

一般社団法人 京都府北部地域連携都市圏振興社 (海の京都DMO)

〒629-2501 京都府京丹後市大宮町口大野226 京丹後市役所大宮庁舎内

TEL 0772-68-5055

(協力・監修)

丹後織物工業組合

京都府織物・機械金属振興センター

京都府丹後広域振興局

京都府文化スポーツ部文化スポーツ総務課、文化政策課

宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町

(出典・協力)

京都府企画理事

京都府丹後教育局

京都府立丹後郷土資料館

西陣織工業組合

舞鶴市市民文化環境部地域づくり・文化スポーツ室文化振興課

滋賀県商工観光労働部モノづくり振興課

群馬県企画部世界遺産課、群馬県蚕糸技術センター

茨城県結城市教育委員会生涯学習課

(公財)重要無形文化財結城紬技術保存会

東京都小平市中央図書館

奄美市商工観光部紬観光課

本場奄美大島紬協同組合



この資料は、平成29年度日本遺産魅力発信推進事業を活用して作成しています。